

6. フェリチンのラジオイムノアッセイ

—(2) 臨床成績について

齋藤 宏
(名大・放科)
林 大三郎
(同・放部)
大屋 敬彦
(同・内)
山田 英雄
(同・内)

血清フェリチンを正常人男子36名女子6名、各種血液疾患患者、および肝疾患患者を中心に検討した。

血清フェリチンは正常人男子で平均 156 ng/ml、女子で 24 ng/ml であった。男女間と予想以上に大差があった。鉄欠乏性貧血では 10 ng/ml で、6 ng/ml 以下の者が多かった。鉄過剰症では、ヘモクロマトーシス、ヘモジデローシスともに高値を示し、貯蔵鉄の増加を反映していたが、再不貧や遺伝性溶血性貧血でも高値が認められた。慢性肝炎、肝硬変症では著変は認められなかった。急性肝炎で増加が著しかったが、治癒に向かうと、GOT、GPT などと共に血清フェリチンも低下した。ヘモクロマトーシスでも、瀉血治療により、貯蔵鉄が減少するにつれて、フェリチン値は低下した。血清鉄とフェリチンとは大よその相関関係が認められた。鉄欠乏性貧乏の治療とフェリチンとの関係についても興味ある知見が得られた。

7. 血中セクレチン測定の診断的意義 (第3報)

綿引 元 中野 哲
北村 公男 武田 功
石口 恒男
(大垣市民病院・内)
鶴田 初男 金森 勇雄
市川 秀男
(同・特殊放射線センター)

われわれは、セクレチンキット「第一」による

Radioimmunoassay 法を用いて、血中 Secretin 値を測定し、その臨床的意義について検討した。

〔結論〕 1) 健常者における早期空腹時の血中 Secretin 値は、 98.4 ± 35.0 (M \pm SD) である。

2) 急性膵炎における血中 Secretin, Glucagon 値の変動は、血清 Amylase の動きにほぼ平行しており、急性期には上昇するが、しだいに正常化することが多い。

3) 外因性に投与した Secretin の血中濃度は、点滴静注開始と同時に上昇し、終了と同時にすみやかに減少し、5~10分ではほぼ前値にもどった。

4) ERCP 後の血中 Secretin 値は、血清 Amylase の上昇にかかわらず、明らかな変動を示さなかった。

5) 十二指腸内へ直接、1/10 N HCl を注入した時、血中 Secretin 値の上昇を認める例と明らかな上昇を認めない例が存在した。しかし、HCl 注入後の十二指腸液中の Amylase 濃度、 HCO_3^- 濃度の変動は、血中 Secretin 値にかかわらず、同様であった。

6) 50 g GTT の際、血中 Secretin 値に明らかな変動は認めなかった。

8. ミオグロビンラジオイムノアッセイの基礎的検討

分校 久志 一柳 健次
久田 欣一
(金沢大・核)

ミオグロビン (MG) ラジオイムノアッセイキットの基礎的検討を行ない正常値を決定した。今回使用した MG ラジオイムノアッセイキットは第一ラジオアイソトープ研究所製 100 検体用である。測定法は血清 0.1 ml をそのまま用い、インキュベーション 4°C、20時間、PEG と牛ガンマグロブリンを別々に添加する旧法と、血中ガンマグロブリン濃度の影響をより少なくするため、検体を緩衝液で希釈して用い、インキュベーション 37°C、2時間、PEG 牛ガンマグロブリン混液添加の新法について検討した。新法ではインキュベーション